

福岡県道路脱炭素化推進計画の概要

計画を策定する目的

- 地球温暖化に伴う気候変動の影響により、自然災害の激甚化・頻発化等が懸念されている
- 地球温暖化に伴う気候変動対策は、地球規模での対応が求められる喫緊の課題
- 道路は、経済成長を支え安全・安心な暮らしを確保する重要な社会基盤である一方、この分野は国内CO₂排出量の約18%を占めており、道路管理者は、脱炭素化に関する役割と責任を積極的に果たしていく必要がある
- 国は、2025年10月施行の「改正道路法」において、道路管理者が「道路脱炭素化推進計画」を策定する枠組みを新たに導入
- 本県として、道路分野における脱炭素化に積極的に取り組んでいくため、「福岡県道路脱炭素化推進計画」を策定

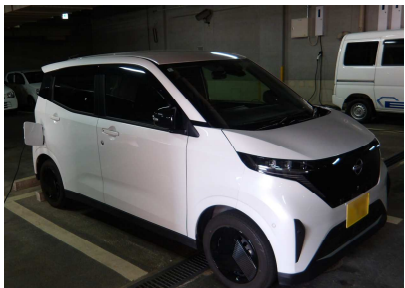
福岡県の管理する道路における脱炭素化の目標

道路管理分野		道路整備分野・道路利用分野		
CO ₂ 排出量 削減目標(2013年度比)		施策	2030年度	2040年度
			2030年度	2040年度
CO ₂ 削減量			49%	79%
施策			2030年度	2040年度
道路関係車両の電動化率 ^{※1}			63%	100%
道路照明のLED化率			100%	100%
再生可能エネルギーの活用			55% ^{※2,3}	65% ^{※2,4}
		低炭素アスファルトの導入促進 (試行工事件数)	5件 (累計)	100件 (累計)
		低炭素な建設機械の導入促進	・燃費基準達成機械の使用 ・GX建設機械の導入促進検討 ・ICT施工の普及促進	・燃費基準達成機械の使用拡大 ・GX建設機械の導入促進検討 ・ICT施工の普及促進
		自転車通行空間の整備延長	300km	500km
		主要渋滞箇所 ^{※5} の対策箇所数	13箇所	今後検討

※1 道路管理者所有のバス・トラック及び公用車を対象
 ※2 脱炭素電力由来の電力割合
 ※3 契約する電力会社の電源構成における脱炭素電源由来の電力の割合が2024年度同等相当と仮定
 ※4 「第7次エネルギー基本計画」を踏まえた2040年度の脱炭素電源由来の電力構成から設定
 ※5 対策実施後のモニタリング実施箇所を含む

削減目標

車両の電動化



自転車通行空間の整備



(一) 津和崎潤線(糸島市)

道路照明のLED化



(一) 浜口遠賀線(遠賀町)

主要渋滞箇所の対策



門松交差点(粕屋町)

その他 脱炭素化に資する取り組み

次世代太陽電池の実証

軽量性や設置自由度に優れた次世代型太陽電池を地下歩道の屋根に設置し、今後の道路施設への導入可能性を検討

設置イメージ



(ペロブスカイト太陽電池)

更なる低炭素新材料の活用の検討

技術動向や供給状況を踏まえつつ、GXスチールや低炭素コンクリートを使用したコンクリート2次製品などの脱炭素化に資する材料の導入可能性を検討



(資料提供:国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所)

【(国)201号新朝倉橋(香春町)】

グリーンインフラの活用

水害が頻発している地域において、自然環境を活用した道路を整備し、浸水・冠水被害を軽減するとともに、脱炭素化にも貢献



【(国)264号(久留米市)】

さわやか道路美化促進活動

道路空間を身近に感じてもらうため、地域住民や地域の企業等のボランティアによる道路の美化・清掃活動の支援を行うとともに、道路脱炭素化に対する理解の促進につなげる



(活動の様子)

